

# ユニバーサルデザイン化 推進テキスト



大分県教育センター  
イメージキャラクター  
ヤリガイくん



大分県教育センター  
平成29年3月

# はじめに

「ユニバーサルデザイン」は、ノースカロライナ州立大学デザイン学部のロナルド・メイス教授が提唱した理念です。自身も身体に障がいがあった彼は、「できるだけ多くの人が利用可能であることを念頭に置いて製品や建物などをデザインする」ことをユニバーサルデザインと定義しました。

社会には様々な道具や施設があります。多くの方が支障なく使用や利用をしているものでも、例えば高齢者や障がいがある人にとっては“使いづらい”“わかりにくい”などの不便さを感じる場合があります。このような不便さを解消するための対策として施設などのバリアフリー化がこれまでも図られてきました。

これとは異なり、障がいの有無、年齢、性別、国籍、人種などにかかわらず多様な人々が気持ちよく使用、利用できるようにと予め考えて計画や設計に着手することがユニバーサルデザインの理念に基づいた取組です。

現在、共生社会の形成を目指し、障がいのある子どもと障がいのない子どもが可能な限り共に学ぶ仕組みであるインクルーシブ教育システム構築に向け、例えば障がいのある子どもに対する合理的配慮の提供について理解を図ったり、環境整備を行ったりする取組が実施されています。このような取組においては、ユニバーサルデザインの理念を考慮して授業実践や教室環境などの見直し、改善を行うことが重要です。

大分県教育センターでは、各学校の教育実践の見直しや改善の一助になることを願い、「ユニバーサルデザインの良さを取り入れた学級・授業づくりハンドブック」を平成28年3月に発行、配布するとともに、当センターで実施する教職員研修や、県内数校が自主的に企画した校内研修、市町村教育委員会が主催した教員研修会で、どの子ども「わかる、できる」が実感できるための授業改善の一方策としてハンドブックの活用を推奨してきました。このことをきっかけに、授業改善や教育環境のユニバーサルデザイン化に取り組んだ数多くの実践事例を提供していただきました。

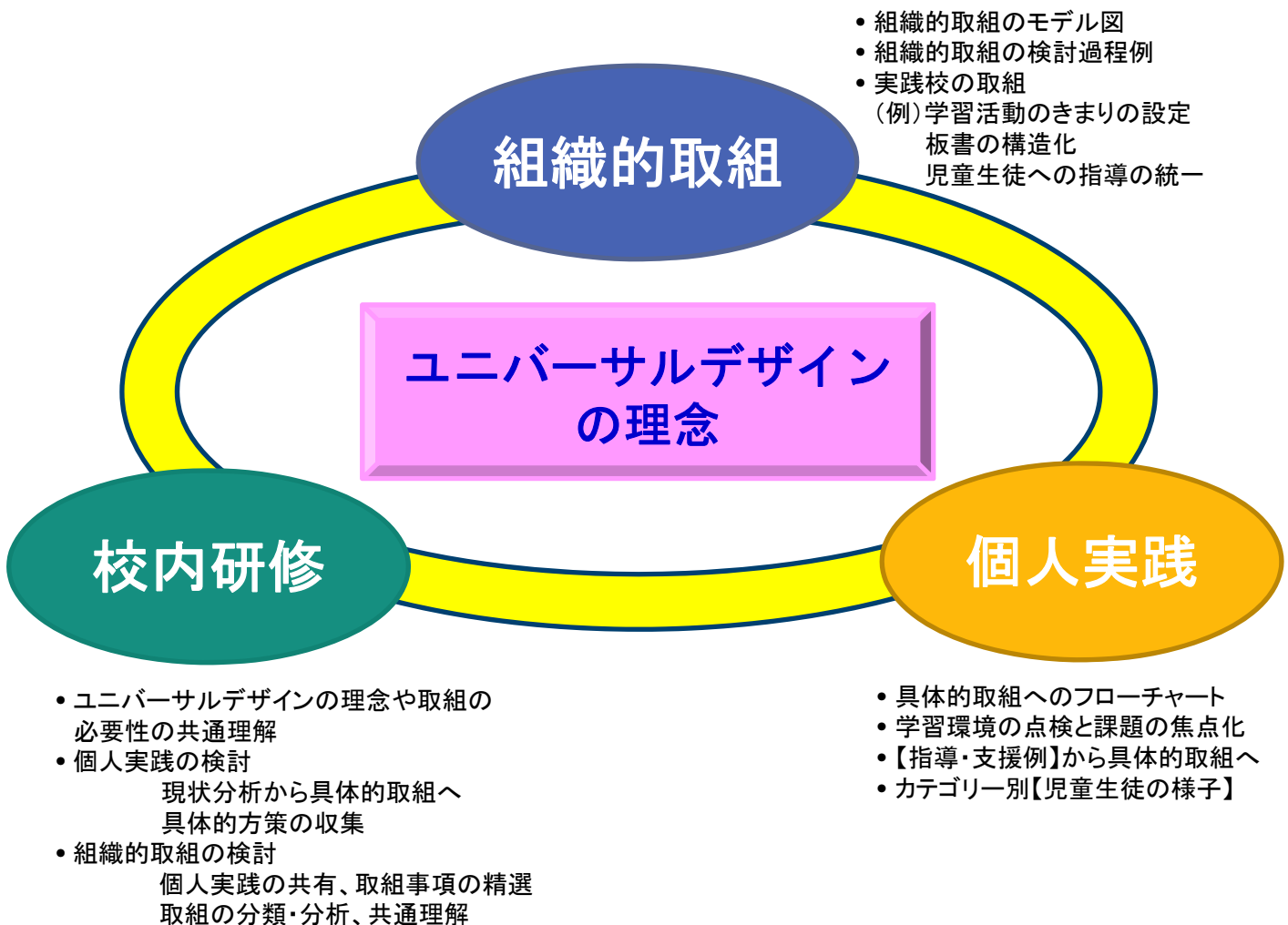
そこで、それらの組織的取組の事例を紹介し、学習環境のユニバーサルデザイン化を県全体へ広げ、一層の推進を図ることを目的に本冊子を発刊することとしました。

この冊子は、教員個々が担当する授業をどのように改善するかだけでなく、校内研修などを活用した学校全体の組織的取組をどのように進めるかという事例も紹介しています。

「ユニバーサルデザインの良さを取り入れた学級・授業づくりハンドブック」も併用して、ユニバーサルデザインの良さを取り入れた授業に関する理解を深めるとともに、各学校各学級（ホームルーム）でどの子ども「わかる、できる」が実感できる授業改善が推進されることを願っています。

# このテキストの使い方

- ◆本冊子は、「ユニバーサルデザインの良さを取り入れた学級・授業づくりハンドブック」と併用して、各学校各学級（ホームルーム）でユニバーサルデザインの視点をいかした授業改善に取り組むことができるように作成しました。
- ◆授業改善を図りたい、組織的取組として学校全体又は各教科で指導方法の統一を図りたい、校内研修に取り組みたいなどの目的に応じてお使いいただけるように、「個人実践」「組織的取組」「校内研修」「実践校の取組」で構成しています。  
目的に即したページをご活用ください。
- ◆学校全体をユニバーサルデザインの理念を取り入れた環境とするためには、教室環境の見直しや板書の工夫、指示・発問の改善などに個別に取り組むのではなく、校内研修を通じた共通理解の促進、教科を超えた指導の一貫性の確保などの意図的、計画的な組織的取組が不可欠です。  
校内教育環境のユニバーサルデザイン化を図る上で、「個人実践」「校内研修」「組織的取組」をどのように関連付けて取組を進めるかという手がかりとしてもご活用ください。



# ユニバーサルデザイン化推進テキスト 目次

## ユニバーサルデザインの理念

- Q1 ユニバーサルデザインとは何か ..... P4
- Q2 なぜ学習環境のUD化が必要なのか ..... P5
- Q3 UDと合理的配慮はどのような関係か ..... P5

## 個人実践

自分でできることから取り組みたい。

- 具体的取組へのフローチャート ..... P6
- UDについて学ぶ ..... P7
- 【チェックシート】で学習環境の点検と課題の焦点化 ..... P7
- 【指導・支援例】から具体的取組へ ..... P8
- 【児童生徒の様子】を活用する ..... P9
- 実践校の取組を参考にする ..... P13~20

## 組織的取組

全校で取り組みたい。

- 組織的取組のイメージ図 ..... P10
- 組織的取組の検討過程例 ..... P11
- 実践校の取組 ..... P13~20

## 校内研修

校内でUDの理解、推進を図りたい。

- UDについて共通理解を図りたい ..... P12
- 個人実践を検討したい、充実させたい ..... P12
- 全校の取組事項を検討したい ..... P12

- 参考文献 ..... P21

## 資料編 (校内研修資料)

- 研究協議例A【個人実践の検討 現状分析から具体的取組へ】 ..... P1、2
- 研究協議例B【個人実践の検討 具体的方策の収集】 ..... P3、4
- 研究協議例C【組織的取組の検討 個人実践の共有、取組事項の精選】 ..... P5、6
- 研究協議例D【組織的取組の検討 取組の分類・分析、共通理解】 ..... P7、8

# ユニバーサルデザインの理念

## Q1 ユニバーサルデザインとは何か

- ◆障害者の権利に関する条約第2条に「『ユニバーサルデザイン』とは、調整又は特別な設計を必要とすることなく、最大限可能な範囲で全ての人を使用することのできる製品、環境、計画及びサービスの設計をいう。」と定義されています。ユニバーサルデザイン（以下「UD」という。）は、その対象が、障がいのある人だけではなく、全ての人であることが特徴です。
- ◆大分県では、平成17年度に「おおいたユニバーサルデザイン推進基本指針」を策定しました。その中で、「UDとは、年齢、性別、個人の能力差、国籍など様々な特性や違いをこえて、最初からすべての人が利用しやすい、すべての人に配慮した、まちづくり、ものづくりを行う考え方」としています。（下図参照）



おおいたユニバーサルデザイン推進基本指針（大分県 平成17年度）より引用

- ◆学校の教室環境や授業などのUD化は、特定の子どもに特化した支援ではなく、「配慮の必要な児童生徒にとって、なくてはならない支援」であり、「全ての児童・生徒にとって、あると便利な支援」であり、全ての児童生徒にとっての「わかる、できる」を目指すものです。

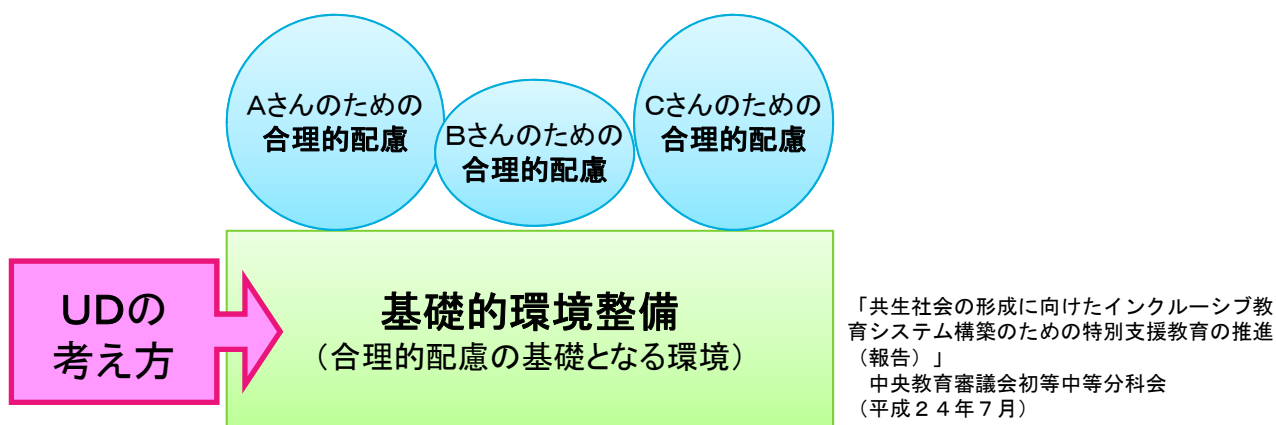


## Q2 なぜ学習環境のUD化が必要なのか

- ◆様々な調査・研究で、わが国の義務教育段階において、特別な教育的支援を必要とする児童生徒が小・中学校の通常学級に在籍する可能性があることが明らかになりました。高等学校（全日制、定時制、通信制）への進学率が100%に近い状況であることを考えると、高等学校でも同様であると推察されます。
- ◆インクルーシブ教育システム構築の面からも、各校種の通常学級に発達障がいを含む障がいのある児童生徒が在籍している可能性があることを前提に、学級（ホームルーム）・授業づくりを進めていくことが求められます。
- ◆特別な教育的支援を必要とする児童生徒が在籍する中、全ての児童生徒の学びを保障していくことは、校種を問わず共通課題です。この課題解決のためには、全体への指導・支援の質を向上させ、全ての児童生徒が「わかる、できる」環境を整える必要があります。この際の視点の一つとして学習環境のUD化があり、学習環境をUD化することで、特別な教育的配慮を必要とする児童生徒に対する個別的指導・支援も行いやすくなると思われれます。

## Q3 UDと合理的配慮はどのような関係か

- ◆学校教育における合理的配慮とは、障がいのある子どもが、他の子どもと平等に教育を受ける権利を享有・行使することを確保するために、学校の設置者や学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障がいのある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるものです。
- ◆合理的配慮の基礎となる環境のことを、基礎的環境整備といいます。基礎的環境整備はUDの考え方も考慮しつつ進めていくことが重要とされています。全体への指導・支援の質を向上させる学習環境のUD化は、基礎的環境整備の一部を担うものと考えられます。
- ◆学習環境のUD化を図り、基礎的環境整備を充実させることは、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する合理的配慮の提供を含めた個別的指導・支援の充実にもつながります。



# 個人実践

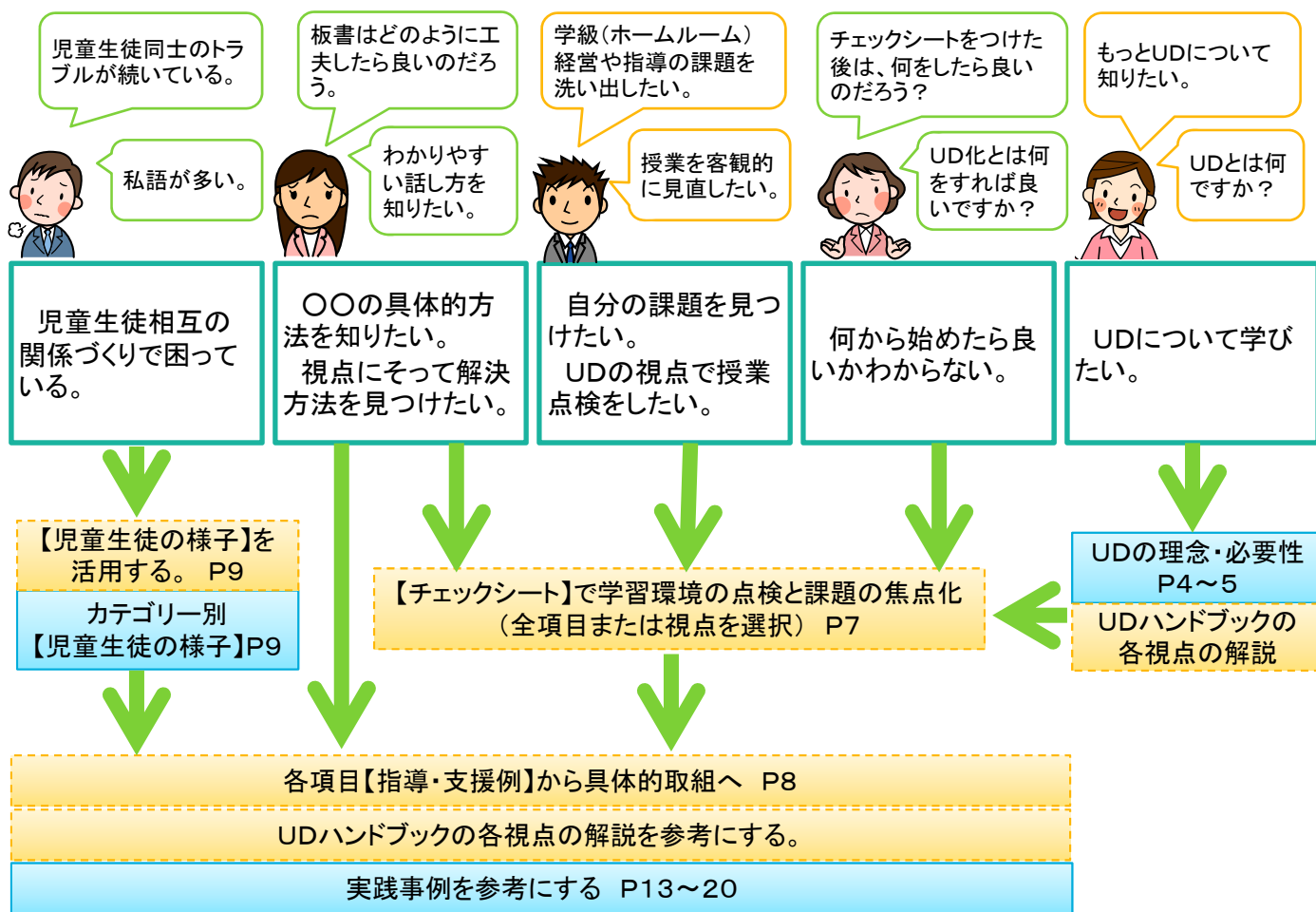
自分でできることから取り組みたい。

- 具体的取組へのフローチャート ..... P6
- UDについて学ぶ ..... P7
- 【チェックシート】で学習環境の点検と課題の焦点化 ..... P7
- 【指導・支援例】から具体的取組へ ..... P8
- 【児童生徒の様子】を活用する ..... P9
- 実践事例を参考にする ..... P13~20

## ● 具体的取組へのフローチャート

※UDハンドブック

※UD化推進テキスト



### 具体的取組

個人実践

校内研修

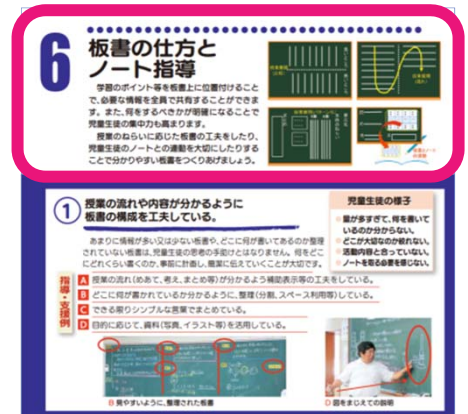
組織的取組

# ●UDについて学ぶ

- ◆ UD化を進める上では、UDの理念やその必要性をまず理解することが重要です。
- ◆ このテキストにはUDの理念をQ&Aでまとめています。また、UDハンドブックの各ページには、視点別に解説やイメージ図が掲載されています。併せてお読み下さい。
- ◆ より深く学びたい方は、巻末に参考となる文献を紹介していますので、参考にしてください。

→ 【UDの理念】 推進テキスト P4~5  
 → 【参考文献】 推進テキスト P21  
 → 【各視点の解説】 UDハンドブック各頁

## UDハンドブック【視点の解説】



# ●【チェックシート】で学習環境の点検と課題の焦点化

- ◆ UDハンドブック裏表紙の【チェックシート】では、7つの視点ごとに、31のチェック項目を設けています。チェック項目は、ハンドブックの各ページの項目と対応しています。
- ◆ 必ずしもすべてのチェック項目を点検する必要はありません。必要な項目に絞った点検から始めましょう。

〇〇の具体的な方法を知りたい。  
 視点に沿って解決方法を見つけたい。

自分の課題を見つめたい。  
 UDの視点で授業点検をしたい。

何から始めたら良  
 いかわからない。

視点を選んで  
 チェック

全項目をチェック

- ◆ [担当 学級・教科]について、1~5段階評価や◎○△×(4段階評価)などの自己評価を行いましょう。

(例)◎ 取り組むことができています  
 ○ 意識しているが、十分でない点がある  
 △ ほとんど取り組めておらず、課題が多い  
 × 全く取り組んでいない

- ◆ チェック後は、×△(取組が不十分)の項目に関するページを開き、【指導・実践例】や写真等を参考にして、具体的な取組を検討・実践します。

→ 【指導・支援例】から具体的な取組へ P8

ユニバーサルデザイン 7つの視点 チェックシート		※7つの視点に沿って、学級・授業を振り返ってみましょう。	
1	関係づくり	関係づくり	◎ ○ △ ×
2	授業環境	授業環境	◎ ○ △ ×
3	学習や生活の容易さ	学習や生活の容易さ	◎ ○ △ ×
4	授業の組み立て	授業の組み立て	◎ ○ △ ×
5	教師の話し方、発問や指示	教師の話し方、発問や指示	◎ ○ △ ×
6	板書の仕方とノート指導	板書の仕方とノート指導	◎ ○ △ ×
7	教材・教具	教材・教具	◎ ○ △ ×



具体的な取組





# ●【指導・支援例】から具体的取組へ

- ◆ UDハンドブックの各項目には、【指導・支援例】を掲載しています。
- ◆ 実践事例の写真や図、イラストも多く取り入れています。
- ◆ 自分の学級(ホームルーム)や児童生徒の様子に応じて、参考としてください。

## ② 話し始める前に、興味を引く工夫(タイミング、立つ位置、前置き等)をしている。

聞く準備ができていない状態で話し始めると、話の内容がうまく頭の中に入らず、聞き落としてしまうものです。話す前に児童生徒の注目を集める工夫が大切です。

**指導・支援例**

- A** 児童生徒の活動をいったん止める等して、話し始めるようにしている。 △
- B** 児童生徒の様子を見ながら、話し始めるタイミングを計っている。 ○
- C** 話す内容について、見通しをもたせるような前置きをして話し始めている。 △
- D** 言葉だけでなく、表情や視線、動作をまじえて話している。 ○
- E** 配慮を要する児童生徒には、言葉だけでなく個別にアイコンタクトや動作などのメッセージを送っている。 ○
- F** 児童生徒の注目を集めるために、指導の場面に応じて立ち位置を変えている。 ○

**児童生徒の様子**

- 話を聞いていない。
- よそ見が多い。
- 聞き落としがある。

すぐにできそうな事項から

優先度の高い事項から

現在の取組改善

具体的取組

チェックリストとして使用することで、取組事項を精選することができます

- ◆ UDハンドブック【取組事例】のように、複数の項目を組み合わせ、実践を展開することが効果的です。

こんなとき、どのような指導・支援をしますか？

学級の実態からポイントを絞り込み、具体的な取組方法を考えてみましょう。

**目標** 落ち着いて過ごせる学級にしたい

**実態** 教室がざわざわしていることが多く、トラブルが起こることもある。また、教室が散らかっていても気にせず、自分が見たいことをする子が多い。

**ポイント**

- 分かりやすいきまりの明示
- スケジュールの提示
- 個人スペースの確保
- 視覚的な支援・配慮

**取組事例**

2-④ スケジュール

3-① 生活のきまり

2-① 個人スペースの確保

2-① 視覚的な支援

2-① 視覚的な配慮

「どこに」「何があるのか」一目瞭然

必要ないものはカーテン等で、できる限り見えないうようにしておく。

→ 【取組事例】 UDハンドブック P1~2  
→ 【実践校の取組】 推進テキスト P13~20

# ●【児童生徒の様子】を活用する

- ◆ UDハンドブックの各項目には、【児童生徒の様子】を記載しています。
- ◆ 学級(ホームルーム)や子どもの様子で困っている場合は、【児童生徒の様子】の中から同じような様子を探し、その項目を参考にすることができます。

**2 児童生徒の実態に合わせた座席配置をしている。**

視力、聴力、身体的な面、こだわり等への配慮が必要な児童生徒は、環境に影響されることがよくあります。最大限の学習効果を得られるような環境づくりを心がけましょう。


**児童生徒の様子**  
 ● 学級が騒々しい。  
 ● 隣席同士のトラブルが多い。  
 ● 班活動がうまくいかない。

**【指導・支援例】**  
 を参考に、配席を見直そう！

子ども同士のトラブルが続いている。

児童生徒相互の関係づくりで困っている。

**薄・支摘**  
**A** 先生や友達からのサポートを受けやすいようなペア・グループ編成を行う。  
**B** 個人の学びやすさ(視力、聴力、身体的な面、こだわり等)に配慮した座席決めを行う。  
**C** 授業に集中できるように座席間のスペースを確保する。



**A** 必要なときにすぐにサポートが受けられる工夫      **C** 各自が集中できる環境スペース

## カテゴリ別 【児童生徒の様子】

	【児童生徒の様子】	視点・項目	【児童生徒の様子】	視点・項目		
<b>集中できない</b>	授業に集中できない	2-①	<b>集団づくり・集団参加</b>	集団活動に参加できない	1-①	
	学級が騒々しい	2-②		友達とどう係ればよいか分からない	1-③	
	すぐに気が散ってしまう	2-③		周囲から浮いて見える	1-③	
	学用品での手遊びが多い	4-①		行動が遅れる	2-④	
	集中しにくい	4-②		時間が守れない	3-①	
	学習活動が遅れがちになる	4-②		集団活動に参加しない	3-①	
	関係ないことをしている	4-③		学級のまとまりがなくなってきた	3-③	
	手遊び、よそ見をする子が出てくる	4-⑦				
	話を聞いていない	5-②		<b>学習意欲が低い</b>	やる気が起きない	1-①
	よそ見が多い	5-②			やる気がわかない	4-③
キョロキョロしている	7-③	自信がない	5-①			
		迷っている	5-④			
<b>トラブルが多い</b>	トラブルの原因が分からない	1-②	興味がない	7-①		
	突然対応しなければならぬケースが頻発	1-②	あきらめて取り組もうとしない	7-④		
	友達とどう関わればよいか分からない	1-③	<b>片付けや準備ができない</b>	片付けが苦手	2-①	
	隣席同士のトラブルが多い	2-②		学習の準備ができない	2-①	
	急な変更があるとパニックになったり、固まってしまう	2-④		忘れ物が多い	2-④	
	校則が守れない	3-①		忘れ物が多い	4-①	
	特定の教科、時間になるとパニックになる	3-③		机上の準備や整理が苦手	4-①	
自分勝手な言動が目立つ	5-①	整理の仕方が乱雑		6-④		
		準備に時間がかかる		7-②		
<b>指示が伝わりにくい</b>	急な変更があるとパニックになったり、固まってしまう	2-④	<b>学習や活動で時間超過する</b>	行動が遅れる	2-④	
	話を聞くのが苦手	3-②		時間が守れない	3-①	
	人と違うことをしてしまう	4-②		学習活動が遅れがちになる	4-②	
	話を聞いていない	5-②		最後まで考えがまとまらない	4-⑤	
	聞き落としがある	5-②		時間が足りない	4-⑤	
	何度も聞き返してくる	5-③		時間内に写せない	6-④	
	発問と違うことをしている	5-④		作業がはかどらない	7-②	
	何のことを説明しているのか分からない	7-①		時間が足りなくなり、最後まで終わらない	7-④	

# 組織的取組

全校で取り組みたい。

● 組織的取組のイメージ図	.....	P10
● 組織的取組の検討過程例	.....	P11
● 実践校の取組	.....	P13~20

## ●組織的取組のイメージ図

- ◆ UDの視点をいかした学級（ホームルーム）・授業づくりは、個人実践にとどまらず、学年別や教科別、さらには全校での組織的な取組が必要となります。
- ◆ まずは、校内でUDの理念、UD化の目的の共通理解を図り、それぞれの学級（ホームルーム）や授業の学習環境の点検を行い授業改善に取り組みましょう。また、各個人の実践を校内で共有することで、個々の実践の一層の充実につなげていきましょう。（図1）
- ◆ 組織的取組の検討には、個人実践を集約・精選することを通して、取組の共通化を図る場合（図2）もあれば、全体の取組（目標）から、各学年や教科での取組、さらには個人の実践を検討していく場合（図3）もあるでしょう。全校で統一できる点、教科や学年毎に取り組む点を十分に検討し、校内で共通理解を図ることが大切です。
- ◆ このテキストでは、【組織的取組の検討過程例】を2例と、【実践校の取組】を小・中学校各2校、高等学校3校の計7校の事例を掲載しています。各学校の状況に応じた組織的取組の参考としてください。

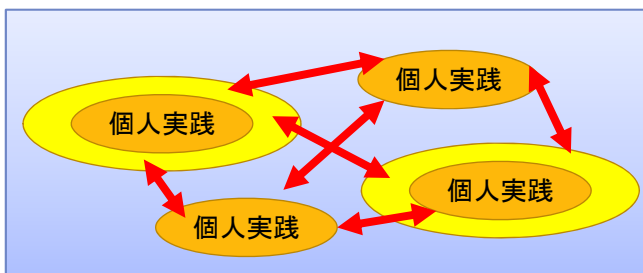


図1:個人実践を推進 → 交流・共有 → 充実

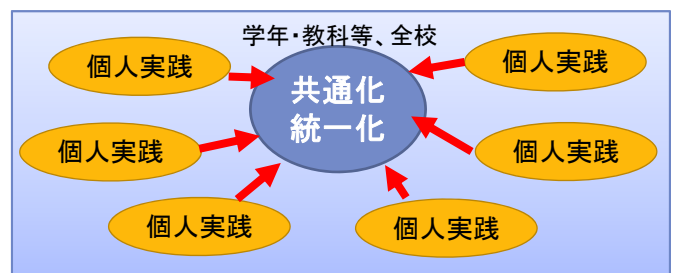


図2:個人実践の集約・精選(学年や教科等、全校)

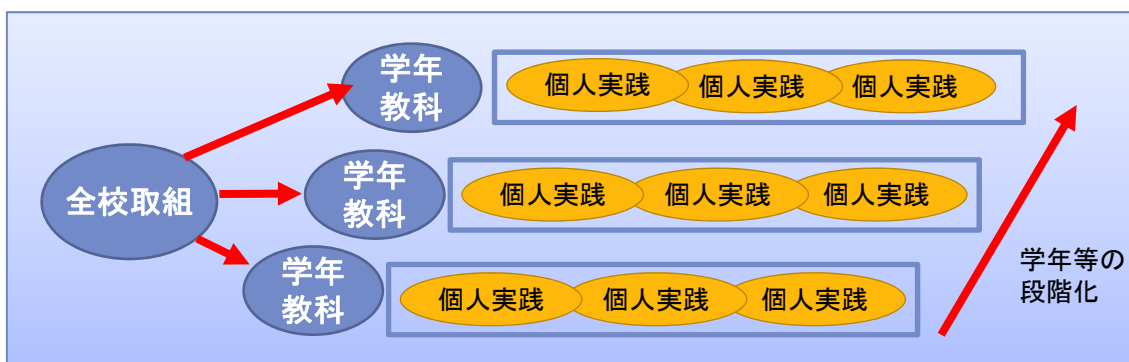
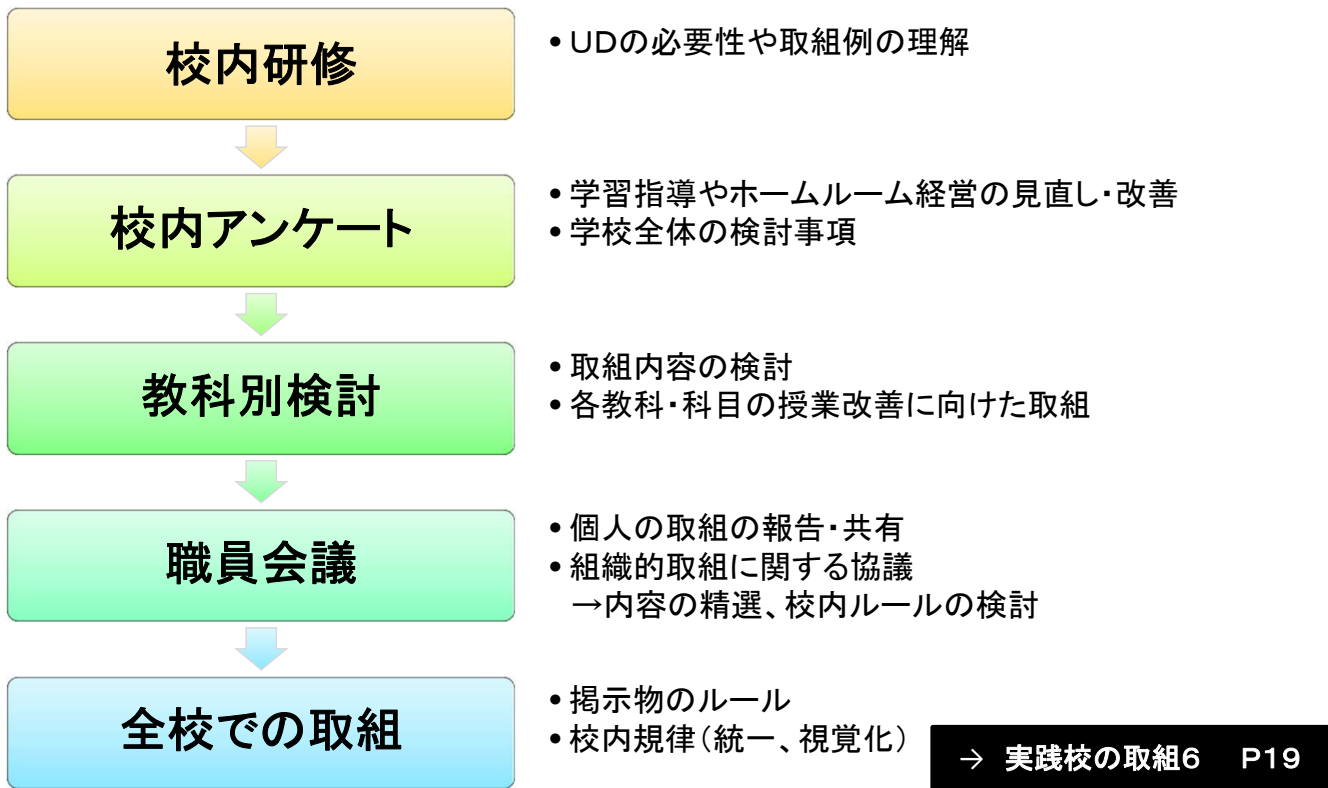


図3:全校取組(目標) → 学年・教科の取組 → 個人実践

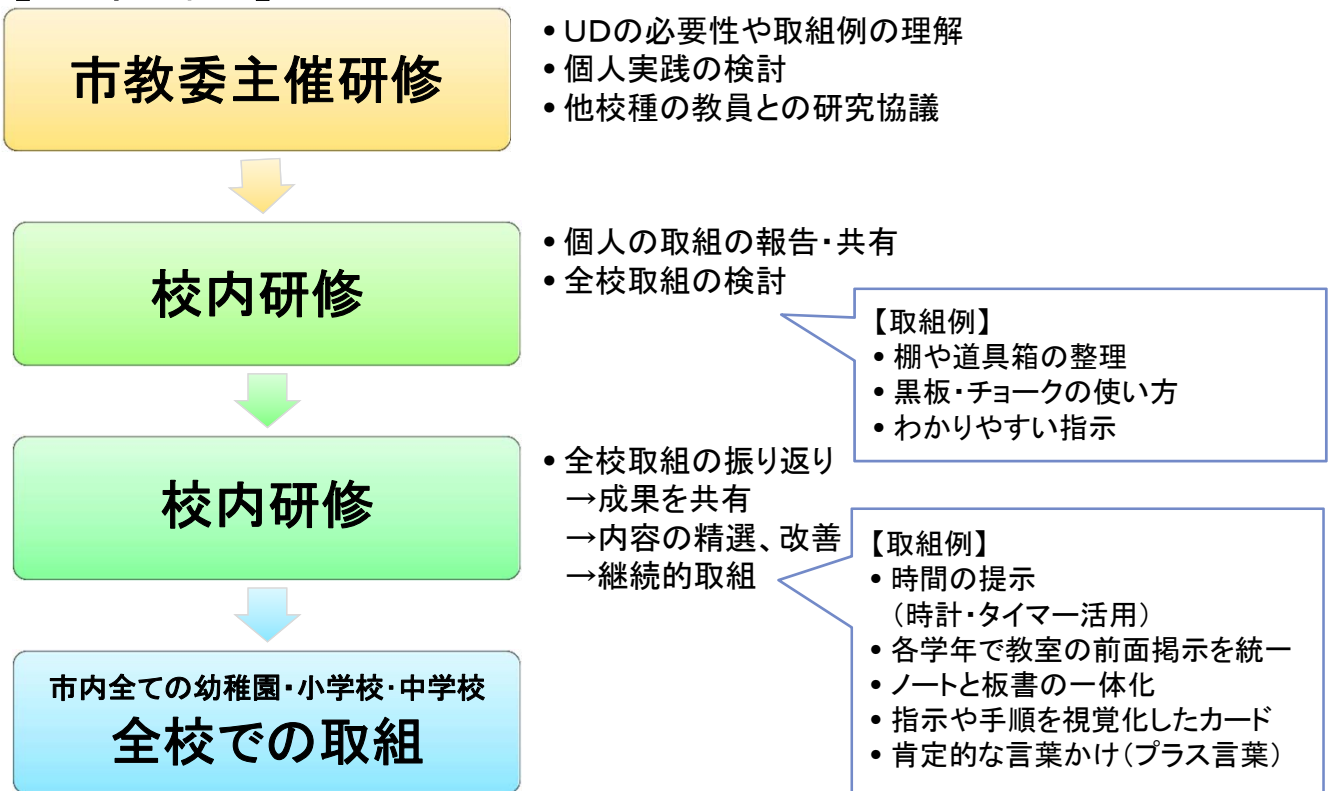
# ● 組織的取組の検討過程例

実践事例の中から、2例の組織的取組の検討過程をまとめました。

## 【 A高等学校の例 】



## 【 B市の例 】





# 校内研修

校内でUDの理解、推進を図りたい。

- ◆ UDの視点をいかした学級(ホームルーム)・授業づくりが個々の実践にとどまらず、学校全体での組織的な取組へと発展させる過程では、目的に応じた校内研修が不可欠です。
- ◆ 本テキストの資料編には、研究協議例の進め方とワークシートを掲載し、準備物や進め方、ワークシートの記入例、進め方のポイントや研修のステップアップのヒントを示しています。ワークシートは各校で印刷してすぐに使用できます。

## ●UDについて共通理解を図りたい

→ 推進テキスト UDの理念や必要性 P4、5

→ UDハンドブック 各視点の解説

## ●個人実践を検討したい、充実させたい

### 現状分析から具体的取組へ

準備物: UDハンドブック、ワークシートA、タイマー  
グループ: 4人グループ(学年別、教科別、ランダム)  
時間: 60分程度

協議のねらい: 自分の学級(ホームルーム)や授業の現状分析に基づき、具体的な取組事項を検討する。

- 説明(5分)
  - 協議のねらいと進め方
- 各自でワークシートA①～④を記入(10分)
  - ①: 学級(ホームルーム)や授業の現状と望む姿を明確にしよう
  - ②: 現状の分析は子どもと教員の2つの視点で考えよう
  - ③: UDハンドブックを参考に対応策を考えよう
- グループ協議(30分)
  - ①: 〇〇も要因では?
  - ②: 児童は〇〇と思っているかもしれないよ
  - ③: この視点の取組も必要では?
  - ④: 私だったらこうする

※時間が短い場合は、ペア協議(15分)に変更する
- 自己まとめ(5分)
  - グループ協議を受けてワークシート修正、追記する
  - 具体的な取組事項を記入する

**ポイント**

- 望む姿を具体的に書き出すことで、自身の明確化につながります。
- 児童生徒の「できない」ことに向きながらも、「どうしてだろう?」と児童生徒の気持ちや行動の要因を考えたり、自分の指導を振り返ったりすることが大切です。
- 各自の取組事項の発表時間を設定する。
- 各自の取組事項を異約し、一定期間後に取組の進捗をチェックする。
- 各自の取組事項を学年別や教科別で共有し、組織的な取組につなげる。

**ステップアップ策**

- 各自の取組事項の発表時間を設定する。
- 各自の取組事項を異約し、一定期間後に取組の進捗をチェックする。
- 各自の取組事項を学年別や教科別で共有し、組織的な取組につなげる。

→ 資料編 研究協議例A P1、2

### 具体的方策の収集

準備物: UDハンドブック、ワークシートB、タイマー  
グループ: 6-8人グループ(学年・教科、ランダム)  
時間: 60分程度

協議のねらい: 各自の取組について実践の取組策を収集する。

- 説明(5分)
  - 協議のねらいと進め方
  - 主に収集したい取組策を事前に記入
- 各自でワークシートB①～④を記入(5分)
  - ①: 取組策を記入
  - ②: 取組策を記入
  - ③: 取組策を記入
  - ④: 取組策を記入
- グループによる取組策の検討(20分)
  - ①: 取組策を記入
  - ②: 取組策を記入
  - ③: 取組策を記入
  - ④: 取組策を記入
- 自己まとめ(10分)
  - 自分のワークシートで取組策・取組策のアイデアの中で、「これはいいい、できそうと思うもの」をつける
- シェアリング(5分)
  - ①: 取組策を記入
  - ②: 取組策を記入
  - ③: 取組策を記入
  - ④: 取組策を記入

**ポイント**

- 意見交換は5分以内を心がけて時間を計ってください。
- 取組策で記入が難しい場合は、取組策・取組策を記入し、取組策を記入してください。
- ワークシートB①～④は、取組策を記入し、取組策を記入してください。
- 取組策を記入する際は、取組策を記入してください。

**ワークシートBの記入例・進捗イメージ**

①: 取組策を記入	②: 取組策を記入	③: 取組策を記入	④: 取組策を記入
①: 取組策を記入	②: 取組策を記入	③: 取組策を記入	④: 取組策を記入

→ 資料編 研究協議例B P3、4

## ●全校の取組事項を検討したい

- ・ 個人実践の交流・共有
- ・ 学年・教科別、全校の取組内容を精選

### 個人実践の共有、取組事項の精選

準備物: UDハンドブック、チェックシート、ワークシートC  
グループ: 6-8人グループ(学年・教科別、ランダム)  
時間: 60分程度

協議のねらい: 個人実践の取組策・取組策をお互いに、今後の学年や教科における取組を検討する。

- 説明(5分)
  - 協議のねらいと進め方
- 実践の振り返り(UDハンドブック チェックシートC)(15分)
  - チェックシートCに記入・取組策の取組策を記入
  - ワークシートC①～④の項目ごとに整理して記入
- グループ協議(30分)
  - ①: 取組策を記入
  - ②: 取組策を記入
  - ③: 取組策を記入
  - ④: 取組策を記入
- グループごとに発表(10分)
  - ①: 取組策を記入
  - ②: 取組策を記入
  - ③: 取組策を記入
  - ④: 取組策を記入
- 各グループの協議内容取組事項を異約し一覧にして、共通理解を図る

**ポイント**

- 取組策が短い場合は、併せて発表でチェックを兼ねて発表してください。
- チェックシートCは、取組策を記入し、取組策を記入してください。
- 取組策を記入する際は、取組策を記入してください。

**ステップアップ策**

- グループ発表の取組策、全校による協議時間を設定する。
- 学年・教科別発表の取組策を精選し、全校共通の取組事項を設定する。

→ 資料編 研究協議例C P5、6

### 取組の分類・分析、共通理解

準備物: UDハンドブック、チェックシートD、ワークシートD(取組策)①～④  
グループ: 6-8人グループ(学年・教科別、ランダム)  
時間: 60分程度

協議のねらい: 今後の取組を検討し、取組事項の共通理解を図る

- 説明(5分)
  - 協議のねらいと進め方
- 実践の振り返り(UDハンドブック チェックシートD)(10分)
  - 取組策を記入
  - 取組策を記入
- グループ協議(30分)
  - ①: 取組策を記入
  - ②: 取組策を記入
  - ③: 取組策を記入
  - ④: 取組策を記入
- グループごとに発表(15分)
  - ①: 取組策を記入
  - ②: 取組策を記入
  - ③: 取組策を記入
  - ④: 取組策を記入
- 各グループの協議内容取組事項を異約し一覧にして、共通理解を図る

**ポイント**

- 取組策が短い場合は、併せて発表でチェックを兼ねて発表してください。
- チェックシートDは、取組策を記入し、取組策を記入してください。
- 取組策を記入する際は、取組策を記入してください。

**ステップアップ策**

- 取組策を記入する際は、取組策を記入してください。
- 取組策を記入する際は、取組策を記入してください。

→ 資料編 研究協議例D P7、8

# 実践校の取組

実践校の取組1

小学校

組織的取組(全校)

## UDの取組内容

### ① 色チョークの使い分けのきまりを作る。

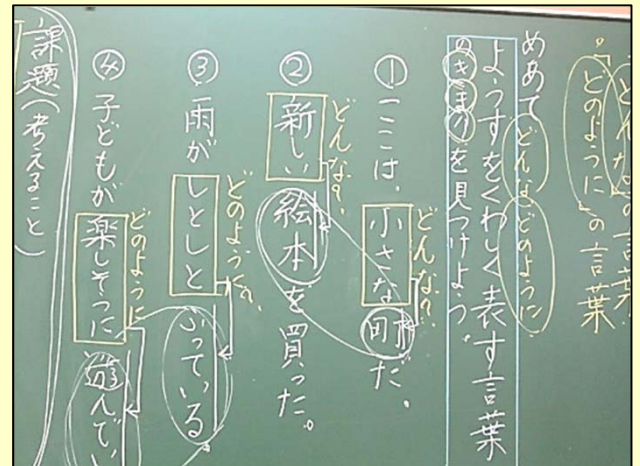
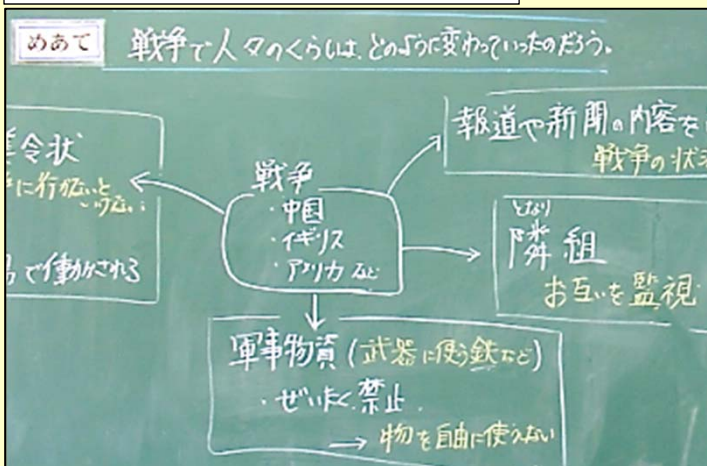
- ・ 黄 → 授業の大事なところ、課題解決のポイント
- ・ 赤 → 「まとめ」
- ・ 青 → 「めあて」の下線、囲み線

UDハンドブック【6-③】

### ② ICT機器の常設・活用

UDハンドブック【7-①】

色チョークの使い分けのきまりを作る



ICT機器の常設・活用



#### 【担当者の感想】

- ・ 授業構想の段階から、板書内容や重点をよく考えるきっかけになった。
- ・ ノート整理で児童に「大事なこと」を明示できるようになった。
- ・ 電子黒板による「見える化」が児童の「わかりやすさ」につながり、学習意欲が高まったと感じる。

#### 【UD化のポイント】

- ・ チョークの色の役割を決めることで、子どもたちが板書の要点を把握しやすくなり、ノートに書き取りやすくなります。
- ・ 緑地に赤や青の文字は読みにくいことがあり、下線や囲みでのポイント使用がおすすめです。



## UDの取組内容

### ① 教室環境を整備する。

- ・ 掲示物を精選し、前面黒板周辺をすっきりさせる。
- ・ 側面や背面は、各学年で必要なものを検討し学年毎に統一する。
- ・ 授業用見出しカード等を使わない時は児童の见えない所に片付ける。
- ・ 行事黒板は、1週間分の予定と2日分日程を記入する。

UDハンドブック【2-③】

UDハンドブック【2-④】

### ② 学校生活や学習活動のきまりをわかりやすく定める。

- ・ 「声のものさし」を視覚化して全教室、廊下に掲示する。

UDハンドブック【3-②】

UDハンドブック【3-③】

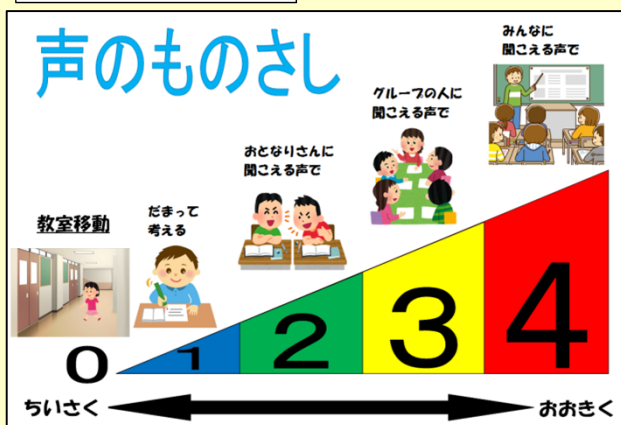
教室環境の整備

整備前

整備後



声のものさし



授業用見出しカードは、黒板に貼ったままにせず、教卓の側面に貼る。

行事黒板は、1週間分の予定と2日分日程を記入する。



**【担当者の感想】**

- ・ 教室環境を整えたことで、児童のよそ見が減り、授業に集中するようになった。
- ・ 「声のものさし」等を全教室に掲示し、全教職員で同じ指導ができるようになった。

**【UD化のポイント】**

- ・ 教室環境において、前面は全校で統一し、側面・背面は学年毎に揃えるという取組は、児童の発達段階、学習内容に応じたUD化です。
- ・ 「声のものさし」は、低学年用にひらがな版もあります。数字の大きさに変化をつけ、さらに色分けするなど、子どもたちにわかりやすく示されています。



## UDの取組内容

① 学習の流れを提示する。

UDハンドブック【4-②】

② 板書の構造化を図る。

UDハンドブック【6-①】

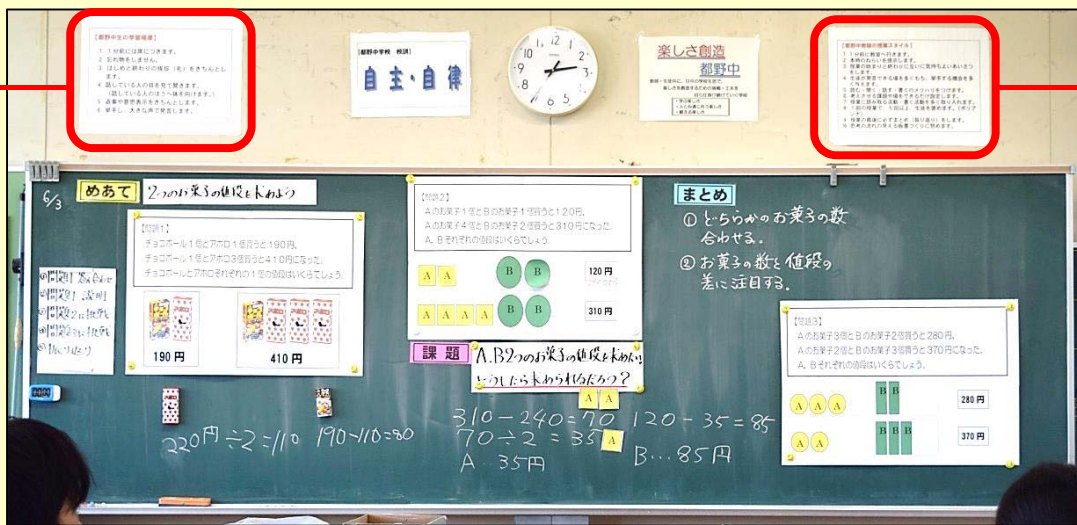
③ 学習規律をわかりやすく定める。

UDハンドブック【3-②】

④ 生徒に統一した指導を行う。

UDハンドブック【3-③】

板書の構造化を図り、学習の流れを提示



学習規律

### 【M中生の学習規律】

- ① 1分前には席につきます。
- ② 忘れ物をしません。
- ③ はじめと終わりの挨拶(礼)をきちんとします。
- ④ 話している人の目を見て聞きます。  
(話している人のほうへ体を向けます。)
- ⑤ 返事や意思表示をきちんとします。
- ⑥ 挙手し、大きな声で発言します。

指導の統一化

### 【M中教師の授業スタイル】

- ① 1分前に教室へ行きます。
- ② 本時のねらいを提示します。
- ③ 授業の始まりと終わりに互いに気持ちよいあいさつをします。
- ④ 生徒が発言できる場を多くもち、挙手する機会を多く与えます。
- ⑤ 読む・聞く・話す・書くのメリハリをつけます。
- ⑥ 考えさせる課題や場をできるだけ設定します。
- ⑦ 授業に読み取る活動・書く活動を多く取り入れます。
- ⑧ 1回の授業で、5回以上、生徒を褒めます。(ポリアンナ)
- ⑨ 授業の最後に必ずまとめ(振り返り)をします。
- ⑩ 思考の流れの見える板書づくりに努めます。

### 【担当者の感想】

- 本時の流れを提示し、1時間の見通しをもたせることで、集中力が持続する生徒が増えたと感じる。
- 板書の構造化により、授業終盤のふり返りにおいて学習内容が確認しやすくなった。

### 【UD化のポイント】

- 生徒の学習規律のみならず、教師の授業スタイルを決めて掲示し、指導の統一化が図られています。
- 学年や教科で統一した指導を行うことは、生徒の学習規律の定着に必要かつ重要です。





## UDの取組内容

### ① 教室環境の整備

- ・ 掲示物を精選し、前面黑板周辺をすっきりさせる。

UDハンドブック【2-③】

### ② 授業の組み立ての工夫

- ・ 本時の流れの提示
- ・ 興味を引きつける教材・教具

UDハンドブック【4-②】

UDハンドブック【7-①】

### ③ 板書とリンクしたワークシート

UDハンドブック【4-⑤】

### ④ ICT機器を活用した資料提示

UDハンドブック【7-①】

教室環境の整備

整備前

整備後



分かりやすい板書や教材・教具



- ・ ホワイトボードに日程を表示
- ・ 持ち物は赤字でわかりやすく
- ・ 棚の目隠しにもなっている

- ・ 図表形式の工夫
- ・ 拡大して見やすく

生徒の興味を引きつける立体的な教材

#### 【担当者の感想】

- ・ 教室の前面の視覚情報を極力減らすことにより、視覚による影響を受けやすい生徒が、集中して授業を受けられるようになった。
- ・ 全ての生徒にとって「わかる・できる」学級・授業づくりを目指すことで、授業のねらいが焦点化され、流れがシンプルでわかりやすく、授業で付けたい力が明確になった。

#### 【UD化のポイント】

様々な方法で生徒に「見えやすい、分かりやすい」教材・教具の工夫を行っています。

- ・ 図表形式の工夫
- ・ 拡大図
- ・ 立体的な教具
- ・ ICT機器の活用



## UDの取組内容

### ① 見通しの持てる授業

UDハンドブック【4-②】

### ② 見え方に配慮した板書、配布物

- ・ 蛍光チョークの使用
- ・ プリント類の字体(12P、ゴシック体)

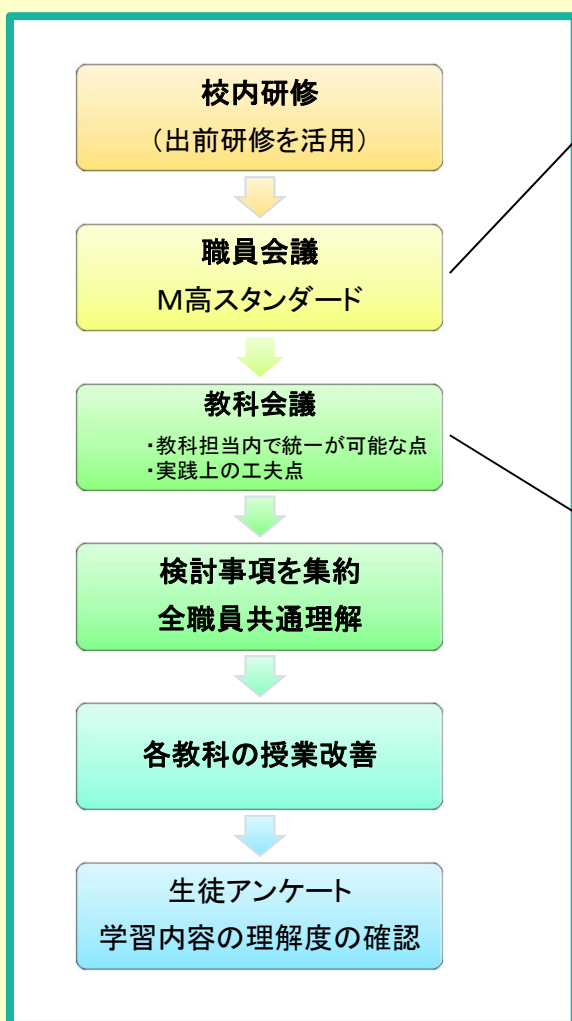
UDハンドブック【6-③】

UDハンドブック【7-③】

### ③ 教科担当間、教師間で情報共有を図る。

UDハンドブック【3-③】

## 組織的取組の検討過程



**本当にやりたいことが見つかる学校**  
**M高スタンダード**

- 学習内容の理解  
寝ね理解できていると回答した生徒の割合 7月:75.9% 10月:50.5%
- 自分の意見や考えをわかりやすく伝える  
概ねできると回答した生徒の割合 7月:49.3% 10月:33.4%

今日の授業の目標  
11/11(金)  
○○とは何だろうか?

今日の学習内容

・まとめ振り返り

1 生徒が見通しを持てる授業  
板書スタイル (今日の授業の目標) → (今日の学習内容) → (今日の授業のまとめ) (生徒の振り返り)

2 ユニバーサルデザインの視点  
蛍光チョーク プリントは「12ポイント ゴシック体」を基本

3 アクティブラーニングの実践…… 1 授業 1 活動の授業  
ICT機器の利用、ペアワーク、グループ学習、意見発表・評価など

この時間は○○が理解できた!

最低、最後の1分間は、生徒が自分で授業の振り返りができるようにする。

(例) (今日の授業のまとめ)  
○○とは▲▲のことだった!

(例) (生徒の振り返り)  
・興味もてましたか?  
・次に授業がもてた点やまた興味もてた点や興味もてなかった点(興味もてなかった学習内容)を取り組めましたか?  
・よく先生の話が分かっていて理解も深かった点や取り組めなかった点(取り組めなかった点)は理解できましたか?  
・○○は理解できましたか?  
・よく理解できた点(分かっていて理解も深かった点)やまだ理解できていない点(よく理解できていない)

※次ページに掲載

### 教科会議の集約(一部)

#### 「蛍光チョーク、12ポイント、ゴシック体」について

国語: 蛍光チョークを使用する

数学: 黒板の字が読めているか確認する

状況に応じてゴシック体12Pを使用する

地歴公民: プリントをできるだけシンプルにする

家庭: 授業プリントを明朝体からゴシック体に変更する

音楽: ホワイトボード使用時でも、マーカーの色に配慮する

情報: PC画面提示では、表示倍率を上げる

### 【担当者の感想】

- ・ 職員研修の一つとして、教育相談主体の「ユニバーサルデザイン」をテーマに実施した。
- ・ 「すぐにでも出来ることから始めよう」と呼びかけ、UD化の具体的実践は教科毎の取組とした。
- ・ 職員の意識の変容が感じられる。

### 【UD化のポイント】

全校提案を受けて各教科で取組事項を検討することで、教科内での指導の統一につながります。また教科に応じた取組を全校で共通理解を図ることは、組織的取組の検討過程で不可欠です。



# M高スタンダード

本当にやりたいことが見つかる学校

## M高スタンダード

- 学習内容の理解  
概ね理解できていると回答した生徒の割合 7月：75.9% 10月：50.5%
- 自分の意見や考えをわかりやすく伝える  
概ねできると回答した生徒の割合 7月：49.3% 10月：33.4%

- 1 生徒が見通しを持てる授業  
板書スタイル：(今日の授業の目標) → (今日の学習内容) → (今日の授業のまとめ) (生徒の振り返り)
- 2 ユニバーサルデザインの視点  
蛍光チョーク プリントは「12ポイント ゴジック体」を基本
- 3 アクティブラーニングの実践……1授業 1活動の授業  
ICT機器の利用、ペアワーク、グループ学習、意見発表・評価など

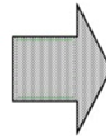
今日の授業の目標

11/11 (金)

〇〇とは何だろうか？

今日の学習内容

・まとめと振り返り



この時間は〇〇が理解できた！

→ 最低、最後の1分間は、生徒が自分で授業の振り返りができるようにする。

(例) (今日の授業のまとめ)  
〇〇とは▲▲のことだった！

(例) (生徒の振り返り)

・興味もてましたか？

- ④大いに興味もてた③まあまあ興味もてた②あまり興味もてなかった①興味もてなかった
- ・真面目に取り組みましたか。
- ④よく取り組めた③だいたい取り組めた②あまり取り組めなかった①取り組めなかった
- ・〇〇は理解できましたか。
- ④よく理解できた③だいたい理解できた②あまり理解できていない①よく理解できていない



## UDの取組内容

### ① 教室環境の整備

- 視覚的刺激の整理
- 掲示物のルール
- スケジュール提示

UDハンドブック【2-③】

UDハンドブック【2-④】

### ② 生徒に統一した指導を行う。

- 「学びのルール」
- 掲示による注意喚起

UDハンドブック【3-②】

UDハンドブック【3-③】

### ③ 板書やプリントの統一化の検討

UDハンドブック【6-③】

UDハンドブック【7-③】

→ 組織的取組の検討過程 P11

教室環境の整備



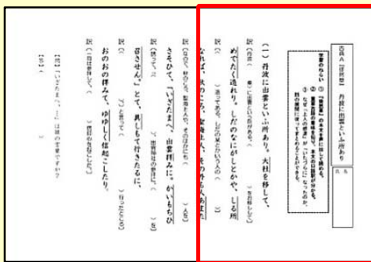
学びのルール

**学びのルール**

授業中や集会時は、  
**携帯電話(スマホ・ゲーム機・タブレットなど)は、使わない**  
**マナーモードか電源を切る**

- 視覚による注意喚起
- 授業・行事開始時の呼びかけ
- 再呼びかけの徹底

授業プリントの改善例



拡大

古撰A三浦然齋 丹波に出雲といふ所あり

字體のねらい ① 標準書の本文書に出して映える。  
② 標準書は字の意を知り、本文の口語訳が分かる。  
③ なるべく「上」の感度が「いたづら」になったのか  
紙の展開は戻って来たものか。

(一) 丹波に出雲といふ所あり。大社を移して、  
めでたく造れり。しだのながしとかや、しる所  
訳 (一) 丹波に出雲といふ所あり。大社を移して、

- 横長に変更(書画カメラで映写)
- 「学習のねらい」を掲載し、始業時に確認
- 書体の使い分け  
本文:教科書体(太字)  
訳:丸ゴシック体  
学習のねらい:ゴシック体

#### 【担当者の感想】

- UDの視点を授業に取り入れることにより、いかに生徒が分かりやすく、理解しやすい環境を整えるかに気を配るようになってきた。
- 生徒は直感的に捉えられる部分が多くなることにより、理解が進み、関心を向ける度合いが増えてきたように感じられる。

#### 【UD化のポイント】

- 「学びのルール」について、きまりを共通理解し、各教室に掲示することにあわせて、指示(指導)の統一も図られています。

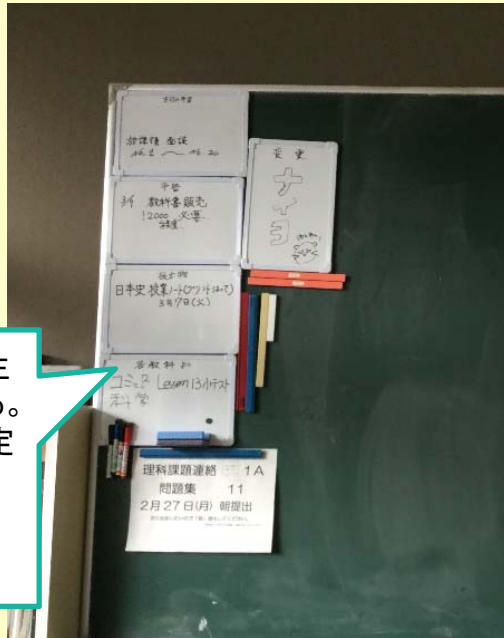




## UDの取組内容

### ① スケジュールの変更や追加があるときには視覚的にわかりやすくしている。

UDハンドブック【2-④】



担任や担当生徒が記入する。

- 今日の予定
- 予告
- 提出物
- 各教科より

#### 【担当者の感想】

- 雑然としていた情報が整理整頓され、確認しやすくなった。
- 提出物の期限を守るなど、スケジュール管理ができる生徒が増えてきた。



#### 【UD化のポイント】

- 中学校や高等学校では、各教科・科目担当からの連絡が随時入ります。口頭伝達だけでなく、視覚化することで、情報が残り確認しやすくなります。
- 見通しを立てることが苦手な生徒にとって、予告や変更が明示されることは、安心につながります。

### ② 学習(提示)内容を分かりやすくするための工夫をしている。

- 「保健だより」を絵図や実物を多用した壁面掲示にした。

UDハンドブック【7-①】



#### 【担当者の感想】

- 取組前は文字情報中心の「保健だより」だったので、十分に読まないうちに破棄されることがあった。
- 生徒たちが掲示物を見ながら、生活を顧みる会話をするなど、「保健だより」の役割が果たせるようになった。
- 作成する生徒(保健委員)がどのように見せると効果的か考えるようになった。



#### 【UD化のポイント】

- 教科指導の授業のみならず、学校生活の様々な指導場面で、生徒を引きつける教材の工夫が大切です。
- 実物を用いて五感で感じさせる工夫が取り入れられています。

# 引用・参考文献

- 1) おおいた・ユニバーサルデザイン推進基本指針  
大分県 平成17年度
- 2) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援育の推進（報告）  
中央教育審議会初等中等分科会 平成24年
- 3) 通常学級での特別支援教育のスタンダード  
東京都日野市公立小中学校全教師・教育委員会、小貫悟著（東京書籍）平成22年
- 4) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりハンドブック  
山形県教育センター 平成25年3月
- 5) 実践 通常学級ユニバーサルデザインⅠ 学級作りのポイントと問題行動への対応  
佐藤楨二著（東洋館出版社）平成26年
- 6) 実践 通常学級ユニバーサルデザインⅡ 学級作りのポイントと保護者との連携  
佐藤楨二著（東洋館出版社）平成27年
- 7) 合理的配慮の提供と基礎的環境整備の取組の具体例 ～すべての子どもが落ち着いて学習に参加できる学校・学級づくり～（モデル校の取組みから）  
大分県教育委員会特別支援教育課 平成28年
- 8) ユニバーサルデザインの良さを取り入れた学級・授業づくりハンドブック  
大分県教育センター 平成28年3月
- 9) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）  
中央教育審議会 平成28年12月

○「ユニバーサルデザイン化推進テキスト」及び「ユニバーサルデザインの良さを取り入れた学級・授業づくりハンドブック」は、大分県教育センターホームページ（<http://kyouiku.oita-ed.jp/edu-c/>）からダウンロードが可能です。

問い合わせ先

## 大分県教育センター

〒870-1124 大分市大字旦野原847番地の2

電話：097-569-0118（代）

<http://kyouiku.oita-ed.jp/edu-c/>